

◆日本史◆ 科目別講評

(1)出題方針

出題の基本方針は、例年と変わることなく、以下の2点だった。

① 高等学校教科書『日本史 B』の範囲を逸脱しないこと。

教科書の範囲とは、各出版社の『日本史 B』全体を対象とし、その本文はもとより、脚注、口絵・図版・各種の図表及びその解説、史料、年表など、教科書に盛り込まれた内容全体を意味する。

ただし、史料や図表、問題のリード文などについては教科書以外からも出題する。また、教科書への掲載頻度が低い用語はできるだけ避けるが、多面的な歴史理解を求める必要から、やや難しい歴史用語やニュースなどに頻出する時事用語、高校生レベルで身につけていると思われる基本的な語句を使用することもある。しかし、いずれの場合でも、教科書の知識で正答を導き出せるように配慮している。

② 当該年度内の問題全体の中で、時代や分野において偏りがないように出題すること。

この基本方針にもとづいて、本年度は、

(102)古代・対外交渉(60点)/近世・社会経済(45点)/近現代・文化(45点)

(103)古代・文化(60点)/中世・政治(40点)/近世～近現代・対外交渉(50点)

(104)古代・政治(50点)/中世・文化(50点)/近世～近現代・社会経済(50点)

(105)古代・社会経済(50点)/中世・対外交渉(50点)/近世～近現代・政治(50点)

(106)古代・政治(60点)/近世・対外交渉(45点)/近現代・社会経済(45点)

(107)古代～中世・社会経済(60点)/近世・文化(45点)/近現代・政治(45点)

という時代と分野の枠組み/バランスから出題することとした。

(2)解答状況および解説

各学部・学科別の受験者・合格者の平均点は「受験者・合格者の科目別平均点」(p.10)を参照してほしい。全体的に言えば、難易度は例年と大差なかったと考えるが、(102)が日本史を選択した受験者全体の平均得点率 57.5%・合格者全体の平均得点率 70.3%と低く、(103)受験者平均得点率 60.0%・合格者平均得点率 71.9%がこれに次いだ。他の日程ではおおよそ、受験者全体平均得点率で 65～71%、合格者平均得点率で 78～84%の幅に収まっている。

以下、日程別の大問ごとの全体傾向を、合格者の平均得点率で示すと、(102)〔I〕67.3%〔II〕75.3%〔III〕69.3%、(103)〔I〕76.2%〔II〕69.5%〔III〕68.8%、(104)〔I〕92.4%〔II〕73.0%〔III〕77.2%、(105)〔I〕69.6%〔II〕79.8%〔III〕86.6%、(106)〔I〕81.3%〔II〕82.9%〔III〕88.4%、(107)〔I〕78.0%〔II〕81.8%〔III〕77.8%である。受験生にとってのおおよその難易度が知れよう。受験者全体の動向でもほぼ同様で、(102)〔I〕古代の対外交渉史、(102)〔III〕近代の文化・社会史、(103)〔II〕中世の政治史、(103)〔III〕近世末～戦後の対外交渉史などの平均得点率は 6 割を切っている。ただし、これらの大問も、一部に細部にわたる出題を含むとはいえ、基本的には何らかのかたちで教科書で取り扱われている内容である。

合格者と受験者全体との間の平均得点率に大きな差が生じたのは、(106)〔III〕近現代の社会経済史、(107)〔II〕近世の宗教史、(102)〔II〕近世の社会経済史、(104)〔II〕中世の文化史などであった。特に(102)〔II〕は近世社会の深い理解をさまざまな側面から問うもので、近年の本学入試としては新たな試みとなった。また、(107)〔II〕や(104)〔II〕などの文化史が、相対的に差が付きやすい分野となっているようである。

個別の設問についての記述解答では、例年と同じく、正確な歴史用語・漢字表記を習得していないための誤答や、設問の指示を見逃す誤答(文字数指定、空欄の文言指定など)も多くみられた。合否を左右するのは、全受験者の正答率が低い設問ではなく、比較的容易な設問群での着実な得点であるため、用語記述の際には細心の注意が必要である。

(3)受験生へのメッセージ

受験上の助言として心がけてもらうことを挙げれば、以下のとおりである。

- ① 出題方針で述べたように、教科書の範囲を大きく逸脱することはないので、まずは教科書を熟読して、基本的な内容を理解することが根本である。また、本学の問題は、歴史用語を記述する問題と語群選択の問題に大別され、どちらかといえば記述問題の方が得点差が大きくなる傾向があるので、歴史用語を漢字で正確に書くこと、設問の指示に注意することなどに、日頃から心がけて学習してほしい。
- ② 個々の知識を大きな歴史の流れの中で理解することが大切である。それによって知識を系統立てて習得できるからである。その際に、時代別だけでなく様々な分野史、たとえば政治史や社会経済史・対外交渉史などを通史的に学習しておくことも有効な方法であろう。対外交渉史では、欧米との関係だけでなく、アジアとの関係について問うことも多い。また、これも出題方針で述べたことだが、各分野を満遍なく問うため、教科書の分野別記載ページ数比率よりもやや文化史が多くなる傾向にあることにも留意しておきたい。
- ③ 日本史は、現在の日本列島のどこにでもその手がかりを見つけることが可能であり、各地の博物館や美術館などでは多様な文化遺産を目にすることもできる。マスコミなどでとりあげられる年中行事や文化財、発掘調査に関わる情報なども、歴史を身近に感じるきっかけになるだろう。日頃の生活の中で、常に歴史との関わりを意識し、また歴史への関心を育てていただくよう切望する。

◆日本史◆ 出題の意図

102	出題の意図
[Ⅰ]	古代の対外交渉に関する基本史料を通して、基本的・具体的な事項の理解を確認した。
[Ⅱ]	近世社会のあり方を深く理解できているかどうか、さまざまな側面から問うた。
[Ⅲ]	岸田劉生の文章をもとに、明治～大正期の文化・社会に関する諸事項の理解を問うた。
103	出題の意図
[Ⅰ]	古代の4つの寺院(薬師寺・東大寺・延暦寺・教王護国寺(東寺))と関係する僧侶・文化財などについて、その基礎的な理解を求めた。
[Ⅱ]	南北朝時代と戦国初期の政治史について、基礎的・具体的な事項を確認した。
[Ⅲ]	近世末から戦後にかけての対外交渉史について、基本的な事項の確認をおこなった。
104	出題の意図
[Ⅰ]	平安前期の政治史について、基礎的な点の理解を求めた。
[Ⅱ]	鎌倉～室町の文化史について、絵画・建築などを中心に理解度を確認した。
[Ⅲ]	近世段階、開国期、産業革命期の貿易の状況について、基本事項の確認をおこなった。
105	出題の意図
[Ⅰ]	旧石器・縄文時代の人々の生活について、生業・消費・流通など、さまざまな側面から理解度を確認した。
[Ⅱ]	室町時代の明・朝鮮・琉球との交渉に関して、基礎的な理解を求めた。
[Ⅲ]	明治時代(廃藩置県以降黒田清隆内閣までの時期)の政治史と自由民権運動について、基礎的な事項の理解を問うた。
106	出題の意図
[Ⅰ]	前半では古代国家成立をめぐる諸事項について問い、後半では藤原不比等活動期の政治史に関する理解を確認した。
[Ⅱ]	南蛮貿易・伴天連追放令・朝鮮出兵や、近世の琉球に関する基本的事項を確認した。
[Ⅲ]	明治・大正時代の金融・諸産業の展開について、その基礎的な理解を求めた。
107	出題の意図
[Ⅰ]	古代～中世の社会・経済について、基礎的な事項を確認した。
[Ⅱ]	近世の浄土真宗本願寺派に関するリード文をもとに、宗教・文化・生活などについてさまざまな側面から問うた。
[Ⅲ]	大正～昭和戦前期の政治史について、選挙や戦局の問題などを意識しながら理解度を確認した。